



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033 番
③3034 番
編集人 渡田 紀生
発行人 渡田 紀生
年間600円 送料 共

お願い

ハンスト参加者の皆さんにお願
いします。どうか尊い経験を手記
に書いて、本紙に寄せて下さい。
本紙にこそ苦勞さまでした。
編集部

炭労、期末闘争へ

要求提出、一人十五万円

炭労は炭鉱資本に対して七月二
日、さきの大会決定にもとずき組
合員一人平均十五万円の期末手当
を要求した。

右の期末手当闘争をすすめる炭
労は、十三日臨時大会を開催して
意志統一を行い、ただちに闘争に
はいるが、まず二十一日に第一波
二十四時間ストライキ、それでも
なれば資本側が回答をひきのばす際
は、再度二十七日二十八日に第二
波四十八時間ストライキに入る。

命を守る闘いを拡大する

三池、ハンストを終結

CO 決意も新たに調印へ

七級認定の貫徹、六項目の要求をかけたCO闘争は、去月二十日から三川鉱正門前の座り込み、さらに七月二日からのハ
ンスト(五十人参加)となり、中央の三井鉱山・政府(労働省)に対する交渉を背後からささげながら、はげしく闘われていた
が、ハンスト突入後百時間及ぶ六日、中央交渉がついに調印(協定は二面)にこぎつけたところから、改めて「命を
守る闘いを拡大強化してゆく」誓いを終結宣言にこめて、一応すべての行動を終結した。

ハンスト終結宣言

われわれは三井鉱山の人命無視
生産第一主義の強行による当然の
結果として起った三川鉱大爆発の
責任追及と、その犠牲となった患
者・遺族に対する完全補償を要求
して、過去八年にわたる長い闘い
を続けてきた。

闘いは今後も続く

資本の基本姿勢変らず

中央委員会

三池労組の中央委員会(八日開
催)は政府の傷害等級決定、CO
運送要求にもとずき三井鉱山との
間に調印された諸協定や経過をめ
ぐる諸問題を審議、職場討議によ
りこれからのCO闘争をどうす
るかを、意見を交わした。その中
には金子医師(三池労組推せん)
の意見を尊重し、再発認定・入院
などもめぐる。

労働省の態度

①三井鉱山に対し、CO患者を
解雇しないよう、強力な行政指導
を行う。
②アフターケアは、一二年
で打ち切ることではない。そして今
後は金子医師(三池労組推せん)
の意見を尊重し、再発認定・入院
などもめぐる。

組合、定期改選へ

闘争の新たな発展めざし

三池労組は六月二十日
を期して組合定期改選にはいる。

早急に保安団交開け

要求
連続人災 許されぬ

三池労組は七月九日付をもって
三井三池鉱業所の天沢誠一所長に
対し、次の保安に関し「残留マイ
ト点検を、管理者の責任で行え」
など要求を提出した。
一、ダイナマイト使用の切羽にお
いては、発破後少なくとも十分間
以上ガス、及び残留マイト点検
を管理者の責任で行え。その場
合、点検のための賃金として、
請負給与に時間当り賃金を支払
え。
二、残留マイトによる災害が発生
した場合、その個所の係員に対
する責任の最低基準を明らかに
せよ。
三、残留マイト探知器を早急に調
査せよ。
四、発破管理についての規則・規
程が守られていないので、厳格
を期して組合定期改選にはいる。

会社の態度

①解雇制限は、現行法は長期療
養給付者は解雇してよいとしてい
るが、他社との関係もあって停年
まで解雇しないといえない。だ
が、先行協定を尊重して当分の間
(三年)解雇しないを継続する。
要求は、十分胸に受けとめる。
②右以外の患者は、他に比べ作
業が劣るからとして解雇はしない
が、ただし暴力行為、職場離脱な
どの場合、一般同様取扱う。
入院見舞金五〇〇万円引上げ。
③前収補償は強く要求したが、
最終的に一千万円支出するから、
それによって処理してもらいた
い。期末手当は、妥協額をそのま
ま支給する従来の方式は打ち切り、
一般同様に取扱う。(長期療養給
付者・経過観察者、九・二八と宮
浦自然発火被災患者などは従来通
り)
④アフターケアの要求につい
ては、最終的に坑外週一回、万田
訓練所は従来通り認める、同訓練
所には七級の患者を入れる。四カ
月間、実績を見る。
従来三池労組が行ってきた入院
・休業補償は、七月まで会社が見
る。そのため一千万円支出する。
退職者の福利厚生利用は一般同
様。九・二八患者には、九十%の
見舞金を出す。
⑤遺族要求については、弔慰金
の差額支給は会社はできないと主
張。生活保護基金に、改めて二千
五百万円支出する。急務にはこの
中から、今後四年間従来通り支出
する。
福利厚生施設は、今後三年間利
用を認める。
資本・政府は一貫して、これで
補償はされたのだと称している。
しかし今度の闘いで、ある程度の
譲歩を勝ちとった。厳しければ厳
しいだけ、今後もCO闘争は闘わ
なければならぬ。討論によって
そのための意志統一を行う。